

鷹野雄一、小谷部全助氏より

昭和9年12月30日 (信濃) 四ツ谷にて 鷹野 小谷部  
御無沙汰して失敬。また出発の際は御見送り下さって有難う。新聞で御承知の事と思ひますが、東尾根は一步違いで湯浅達が十二月初登攀をやってしまったが僕達も何んとか目的を達せましたから御安心下さい。天気悪化の為め完登は出来ませんでした。岩峯を略した東尾根は完全に登攀しました。(エチオピア)

岩峯の登攀は異常な体力とテクニクを要し、厳冬には無理だ。まだ誰にもこの岩には手をつけて居ないらしい。三月頃確実な天候の下に充分な時間をかけてこの岩をやつたらそれこそ快極まるでせう。雪中キヤムプ快適、これから唐松白馬へ(助氏)

小谷部全助氏より

昭和12年12月23日 沢渡にて 東京商大山岳部  
前略 その後御祖父様如何

貴兄の不参加最終年度でもあり一同落胆しました。天候は十八日以後毎日降雪で先発隊は徳沢迄順調に入りました翌二十日無理して降雪中奥又白ルンゼを荷上に登つた為、全員かなりの一次表層雪崩に遭遇、森川は全く埋没されたさうですが幸い偶然埋没を免れた他の四名に見られ全然無事なるを得ました。唯日江井は腕を完全骨折

御無沙汰して失敬。また出発の際は御見送り下さって有難う。新聞で御承知の事と思ひますが、東尾根は一步違いで湯浅達が十二月初登攀をやってしまったが僕達も何んとか目的を達せましたから御安心下さい。天気悪化の為め完登は出来ませんでした。岩峯を略した東尾根は完全に登攀しました。(エチオピア)

しました。その為二十一日は榎本を除く森川、船本、大塚で中ノ湯迄日江井を送つて参り、その日は後発隊と共に一泊二十二日、再び徳沢へ一同と共に上り、小生のみ日江井を松本迄送り飯手当をして帰京させました。小生は鷹野を呼んだりして松本泊、翌二十三日一気に徳沢へ上る積り。合宿は大徳沢を主として、残留班のみ天幕生活して壁をやる積りです。何れ又出来たら詳細御使ります。では又。